

国際関係学部国際関係学科のカリキュラム・ポリシー

島根県立大学のカリキュラム・ポリシーの下、国際関係学部国際関係学科は、教育研究上の目的及び学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、基礎教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。

【教育課程編成の考え方】

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を涵養するために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修するとともに、情報・統計処理の基礎を学ぶ「情報・統計科目」を履修します。
- (2) 「基礎教養科目群」に「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を履修します。
- (3) 初年次教育の柱として、大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、「アカデミックライティング」を必修とします。
- (4) 専門的知見修得の基盤となる知識を身につけるために、1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を体系的に履修します。
- (5) 専門的知識について基礎から応用へと体系的に発展・高度化させて学修するために、2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目から所定の単位を履修します。
- (6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

【学習内容及び学習方法】

- (1) 教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- (2) 英語や北東アジア言語の実践的な運用能力および多彩な他者と共感する姿勢やコミュニケーションを図る態度を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。
- (3) 能動的・主体的に学修する態度を涵養するために、すべての学年で演習などの少人数教育を履修します。専門教育科目として2年次に基礎演習、3・4年次に専門演習を配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。

【学修成果の評価方法】

- (1) 学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できて

いるのかという観点から定めます。

- (2) 試験による評価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平常点などを科目の性質に応じて組み合わせて行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。
- (3) 中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

国際関係コースのカリキュラム・ポリシー

国際関係コースが掲げるディプロマ・ポリシーに示す能力を身につけることができるよう、つぎの基本的な考え方で教育課程を編成します。

教育課程編成の考え方

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、豊かな人間性と高い倫理観に基づいて国際社会の平和的発展を希求し、多文化共生の知恵を編み出す知的素地を培うために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修します。また、情報・統計処理の基礎を学修するために、「情報・統計科目」を履修します。
- (2) アカデミックな外国語活用能力の基盤を修得するために、「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を履修します。
- (3) 大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、初年次教育の効果を高めるべく、少人数ゼミの「アカデミック・ライティング」を必修とし、専門基礎科目との学修上の連携を図ります。
- (4) 1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を順次性に従い体系的に履修することで、北東アジアをはじめとした国際社会におけるグローバル化の潮流と、グローバル化に伴う複雑な社会的事象や国内外の課題について学修します。
- (5) 2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」の選択科目から所定の単位を履修し、北東アジアをはじめとする世界の政治経済・社会動向・歴史・文化に関わる専門的知識について学修します。
- (6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

学習内容及び学習方法

- (1) 教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- (2) 能動的・主体的に学修する態度を涵養し、異質な意見を持つ多彩な他者とも対話・協働して合意形成を試みる姿勢を身につけるために、すべての学年で演習などの少人数教育を履修します。専門教育科目として1年次後期と2年次前期に基礎演習、2年次後期、3・4年次に専門演習を配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。